



# 大洲高校 PTA 月報

令和2年11月号

会員寄稿

## 当たり前の日常

PTA 副会長 谷本 直俊

主役を助け引き立たせる役や脇役を、バイプレーヤー（和製英語）と言いますね。みなさんにとって「脇役」とは何でしょうか？ どんな場面においても脇役は存在するものです。部活動においても、キープレーヤーを引き立てるのは、周りのメンバーかもしれませんし、マネージャーかもしれません。それは人物だけの話ではなく、物事にも脇役はいます。私の場合、大洲高校時代の勉強での脇役を考えてみると、「まあまあ出来た」英語を引き立たせたのは、「出来ない」国語や日本史だったような気がします……。他にも、センター試験で思ったより点数が良かった数Ⅰのような脇役もいました。私は、その数Ⅰがあったおかげで、英語のみの二次試験で志望校に合格できたのかもしれません。その脇役に感謝をしなければなりませんね。いつ何時、誰が、何が、主役を引き立たせる役割になり得るかは分からないわけです。

日常生活において、脇役から主役が生まれ、また新たに脇役が生まれてくる。この繰り返しなのですね。我々保護者は、勉強や部活動、それぞれの目標に向かって高校生活を送っている子どもたちの脇役であると思います。子どもたちが巣立っていくまで残り数年間しかありませんが、しっかりと脇役として応援・サポートをしていきたいと考えています。そして、子どもたちにも、その脇役がいることに感謝して学生生活をエンジョイしてもらいたいものです。

**「支えに感謝すると、支える力がさらに強くなる。」**

**この当たり前の日常は実に尊いものである。」**

